



【学校教育目標】生き抜く力を身につけ、自ら輝く生徒の育成

【目指す生徒像】自立のために自律できる生徒

富士見台中学校HP

敬意を払う

37日間の夏休みの間、生徒に関する事故の連絡はなく、元気に過ごすことができたようで何よりです。保護者、そして地域の皆様のおかげです。7月27日(土)には、鶴瀬東2丁目南町会の納涼まつりに多くの生徒がボランティアとして参加しました。地域の一員として活躍できる場を与えてくださった鶴瀬東2丁目南町会の皆様、そしてお子さんを快く送り出してくださった保護者の皆様にも感謝申し上げます。参加した生徒は、地域の方々と一緒に祭りの運営に携わり、働くことの楽しさや喜び、難しさを感じるとともに、ふるさとを愛する気持ちが一層高まったのではないかと思います。本校の生徒は、保護者や地域の皆様のおかげで、毎日笑顔で元気に過ごすことができております。

さて、本校の教職員は、「生き抜く力を身につけ、自ら輝く生徒の育成」という学校教育目標のもと、日々全力で指導に励んでいます。いわゆる「空き時間」や生徒の登校前も下校後も寸暇を惜しんで、教材研究や成績処理、環境整備に行事の準備など、数えきれない仕事をしています。そのような仕事の積み重ねが、本校の質の高い教育活動を支えています。私は校長として、本校の教職員を誇りに思うとともに、感謝の念に堪えません。私は、本校の教職員が毎日心身ともに健康に働くことができる環境を整えることこそ、校長の責務であると考えています。

そこで、皆様に改めてのお願いです。

今年の1月18日に発行した学校だよりにおいて、保護者の皆様には「ご理解ご協力いただきたいこと」として、学校からのお願いを書いたところです。1年生の保護者の皆様におかれましては、富士見台中学校のホームページに掲載されていますので、ぜひご一読いただきますようお願いいたします。

もちろん、学校として、その対応に至らないところがあれば、ご指摘いただいたことはしっかりと受け止めて、改善してまいります。1学期も、多くの保護者や地域の方々から貴重なご意見ご指摘をいただきました。学校としては、それらを真摯に受け止め、よりよい教育活動の展開に努めて参りました。しかし、きわめて一部の方々ですが、声を荒らげて感情的に意見を述べたり、教職員の人格を否定するような表現を用いたりすることがありました。時には、学校が出来得る人的・物的な最大限の配慮をしたにも関わらず、感謝の言葉一つなく、不満と批判を述べて現状の変更を要求されたこともありました。

部活動を例にすると

前述の内容は抽象的ですので、以下、部活動を例にして説明します。

大前提として、部活動の顧問は学校の教職員の仕事ではありません。部活動は、本校の教職員の善意で成り立っています。校長は年度当初に、本校教職員に対して各部活動の顧問をお願いしています。そして、本校の部活動は生徒各人の任意加入制であります。1年生は部活動説明会等で、2・3

年生は昨年度までの活動を自分自身で振り返って今年度の部活動について考えます。また、今年度は、年度当初の全校保護者会において校長だけでなく本校在籍が最も長い栗城教諭、部活動担当の神田教諭から部活動の意義や保護者の皆様へのお願いについて学校としての、顧問としての思いをお伝えしました。

つまり、部活動については、学校としての考えや各部における方針等を生徒並びに保護者に示し、生徒本人と保護者が総合的に判断し、納得をしたうえで各部に所属していると認識しています。

しかし、保護者や地域の方々の中には、顧問である教員の指導や練習内容、日程をはじめ様々なことについてご意見をいただきますが、時に、顧問に対する敬意を失した言動を見聞きすることもありました。学校としては、その方針等に共感・納得いただいた上で取り組んでいると考えているところですが、無理難題を要求されることもあり、学校としては許容できないことがあります。

以前もお伝えしましたが、部活動の方針及び指導に関しましては、顧問が責任をもって取り組んでおります。保護者の皆様は顧問の苦労や子供たちの頑張りを理解し、ご支援いただきますようお願いいたします。顧問への信頼感無しに、子供たちが安心して部活動に取り組むことはできません。家庭や地域で、顧問批判のようなことを口にするのは厳に慎んでください。

もし、各部の方針に共感・納得出来ないときには、学校外の団体で活動することをお勧めします。

「結果」でなく「経過」が大切

学校は教育活動を通して、人を育てています。間もなく義務教育が終わり、世の中の役に立つ人間として、社会の一員として愛され、活躍できる人を育てています。上記の例で言うならば、部活動は、勝ち負けという結果でなく、そこに至るまでの経過が大切です。

作家の三浦綾子さんの言葉です。

一見、マイナスに見える体験というものが、どんなに人を育てるための大事な体験であることか。そのマイナスの体験が、やがて、多くのプラスに変わるのではないだろうか。

人は望まないのに、苦しい状況や辛い目に遭うことがあります。それは人生の「節」なのです。そして、その節から、新しい芽が生まれてきます。節目があるから強く、しなやかに成長していくものです。節の大切さについては、7月号でも触れたところです。

今、目の前にいる人、起きている出来事のすべてを前向きにとらえ、心から好きになると、いろいろなことが吸収できます。拒否すると絶対だめです。

お互いがお互いに敬意を払いながら

学校・家庭・地域がお互いに敬意を払って、それぞれの役割を果たしていくことが、地域の宝である子供たちの健やかな成長につながると考えております。学校としては、教職員一同、引き続き全力で指導してまいります。

2学期早々、厳しい表現によるお願いとなったこと、ご容赦ください。しかし、本校の教職員もまた、本校の、そして富士見市の宝です。

全ては明日の子供たちの幸せのために、ご理解ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。